

## 2013-6-1 山羊の腎臓

## 提出機関:

Department of Pathobiology and Veterinary Science  
Connecticut Veterinary Medical Diagnostic Laboratory  
University of Connecticut

畜種: 山羊 (ヌビアン種) 6か月齢 雌

## 病歴:

病畜は山羊と羊の20頭未満の群れに属していた(家畜は複数の導入元から取得)。2週間前から呼吸器系の感染と角膜浮腫、失明、後躯の虚弱を呈したため安楽殺。

## 剖検所見:

ボディコンディション不良。両眼球角膜の白濁。肺は頭腹側のおよそ70%が暗赤色・硬化し、気管内腔に多量の白色泡沫状物がみられた。小腸の複数の分節で漿膜が赤色化。肝臓の表面と実質に点状の白色病変が複数存在。脾臓の断面は白脾髄著明。腸間膜及び腰下リンパ節は中程度に腫大。



出典:

[http://www.nlbc.go.jp/nagano/gyomu/g\\_yagi\\_type.html](http://www.nlbc.go.jp/nagano/gyomu/g_yagi_type.html)

## 病原検索

肺 : (10%炭酸ガス培養) *Mycoplasma* sp.を分離

肝臓 : (10%炭酸ガス培養) 細菌の発育なし

腎臓 : (nested PCRによる検索)

alcelaphine herpesvirus1 : AIHV-1

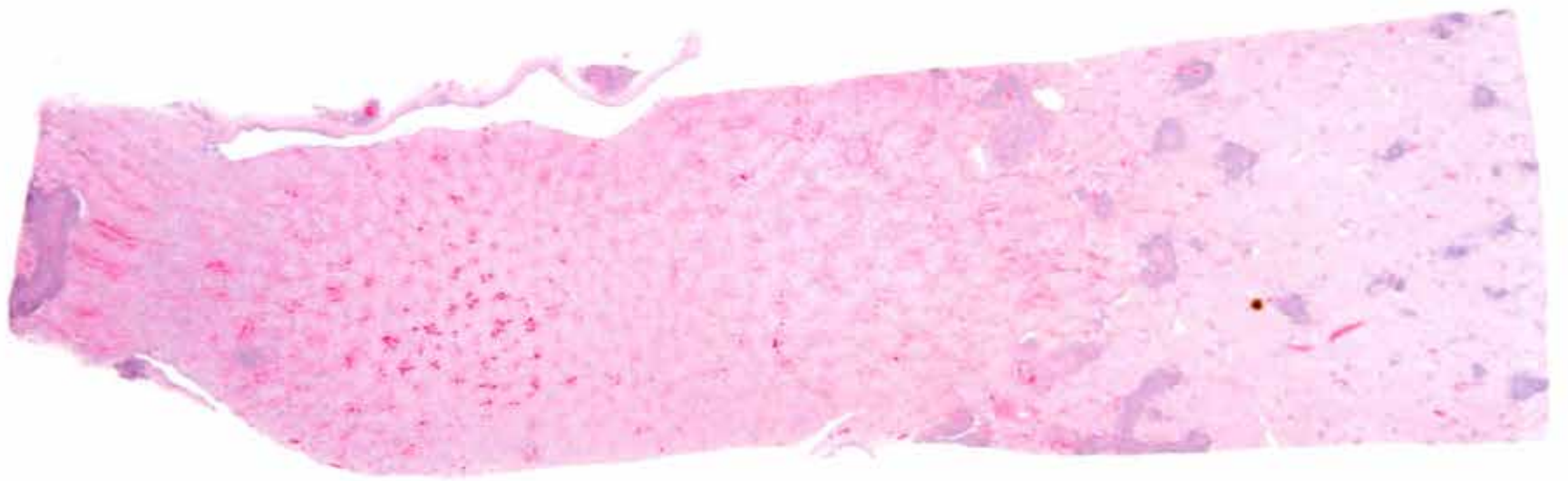
(オオカモシカヘルペスウイルス1)

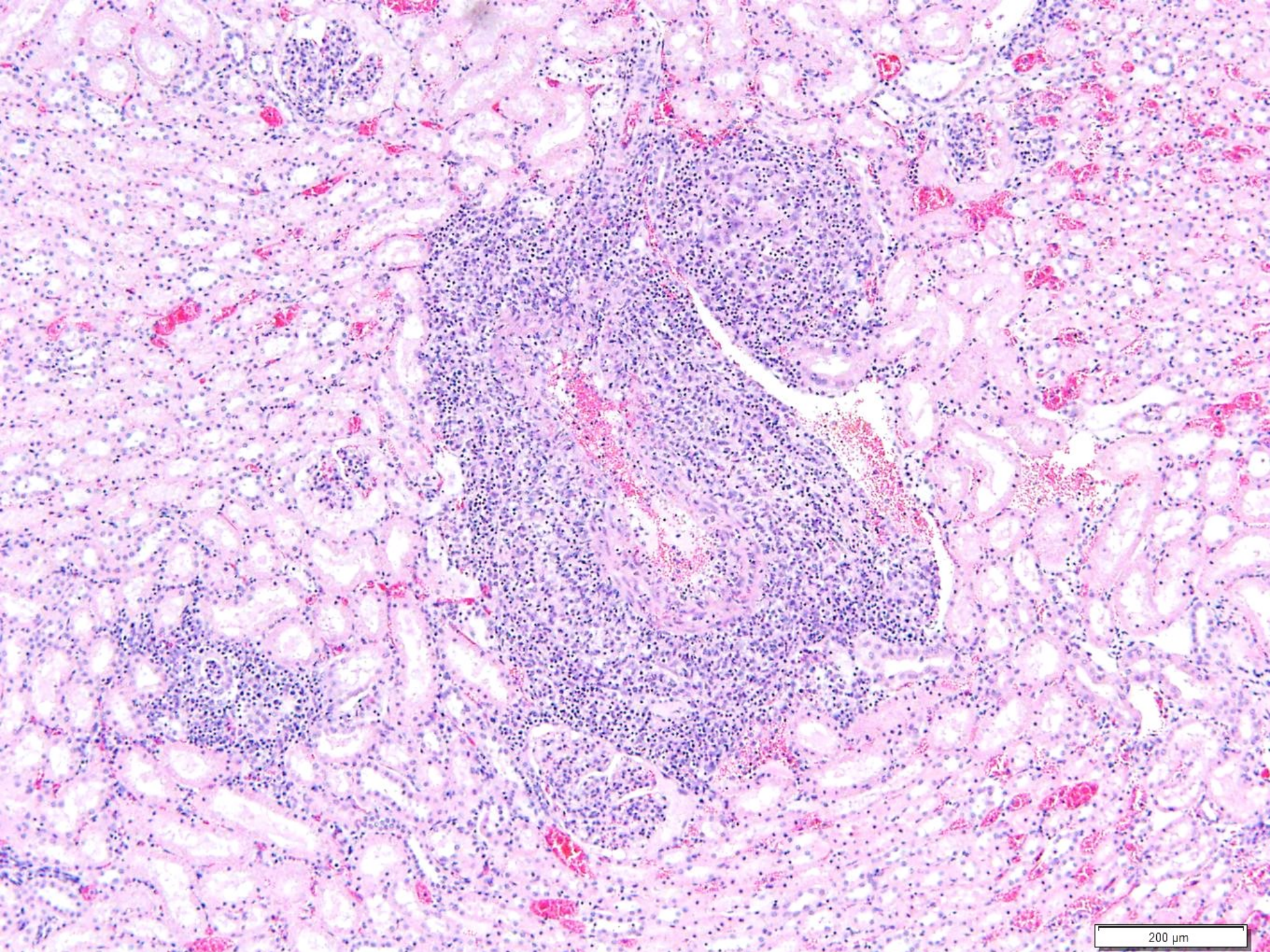
ovine herpesvirus2 : OvHV-2

(ヒツジヘルペスウイルス2)

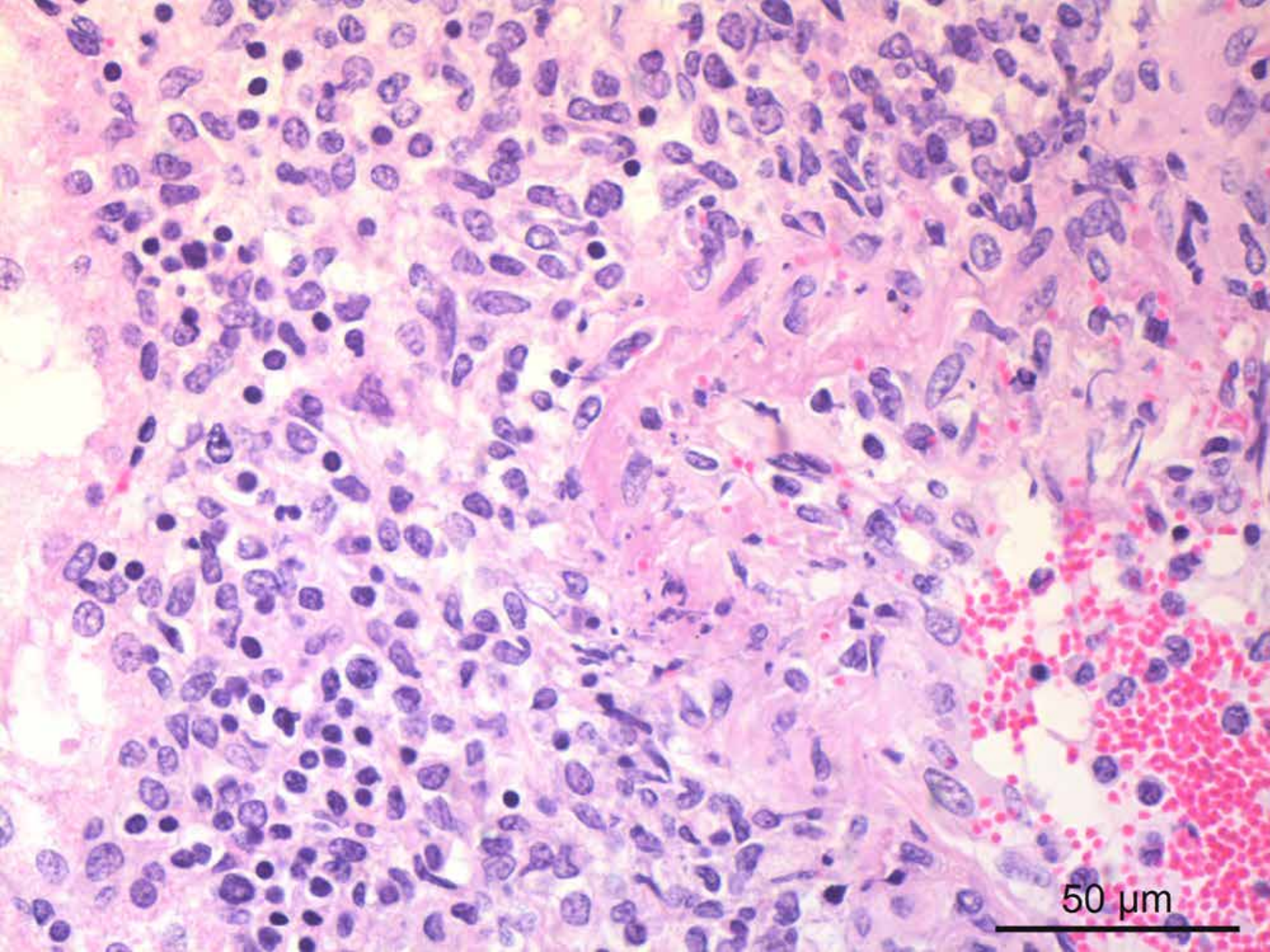


OvHV-2遺伝子検出

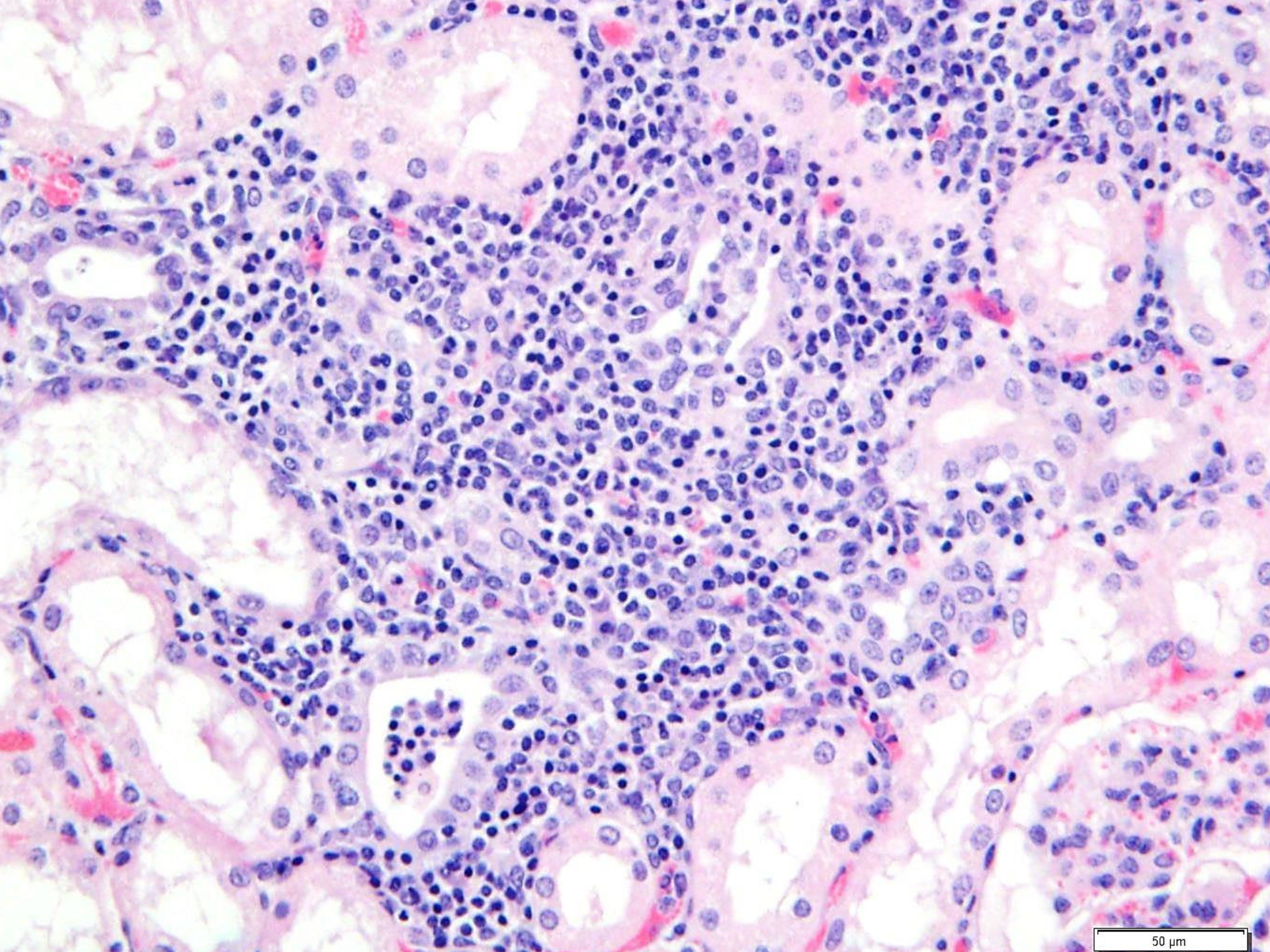




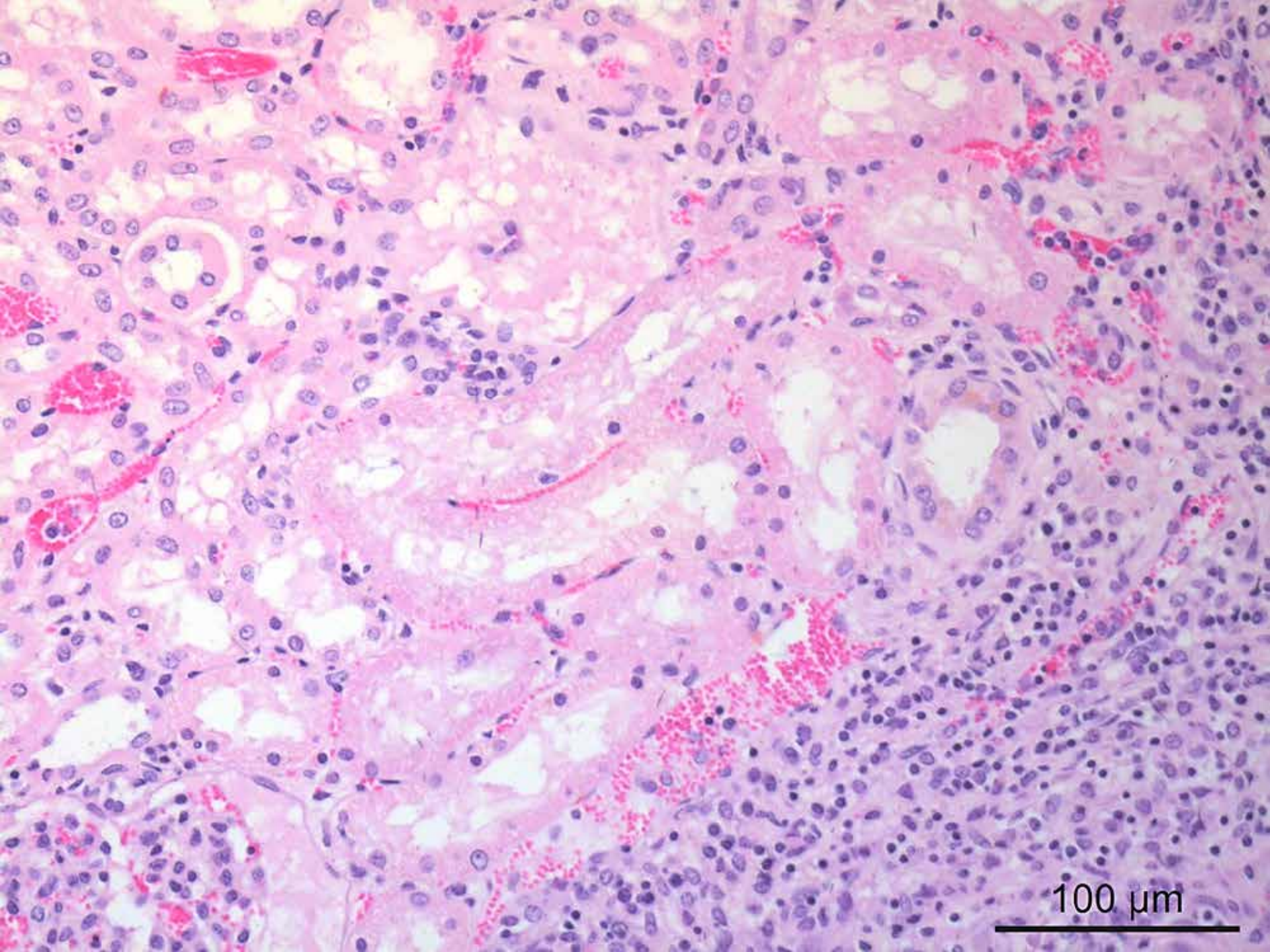
200  $\mu$ m



50  $\mu\text{m}$



50  $\mu$ m



100  $\mu$ m

# 提出者の診断

腎臓:

重度、多発性、リンパ球組織球性およびリンパ芽球性

慢性壊死性血管炎および血管周囲炎

軽度の多発性リンパ球性間質性腎炎・尿細管の変性壊死を伴う

リンパ球性壊死性血管炎および間質性腎炎(悪性カタル熱)

Kidney: Severe, multifocal, lymphohistiocytic and lymphoblastic, chronic necrotizing vasculitis and perivasculitis with mild multifocal lymphocytic interstitial nephritis, tubular degeneration and necrosis.

Condition:

lymphocytic necrotizing vasculitis & interstitial nephritis; Malignant catarrhal fever

# JPCの診断

腎臓:

血管炎

リンパ芽球性、壊死性、多発性、重度

フィブリノイド変化・リンパ球形質細胞性間質性腎炎・尿細管の変性壊死を伴う

Kidney: Vasculitis, lymphoblastic, necrotizing, multifocal, severe, with fibrinoid change, lymphoplasmacytic interstitial nephritis and tubular degeneration and necrosis.



# 提出者のコメント

ヒツジヘルペスウイルス2 (OvHV-2)

レゼルボア: ヒツジ → ヒツジ随伴型悪性カタル熱の原因

家畜では主に牛や水牛で散発的な発生事例がある

ヤギにおける症例はまれ

年	国	主症状	剖検	組織所見
2006	UK			
2007	GER.	・発熱 ・神経症状 (運動失調・振戦)	リンパ節腫脹 腎臓・肝臓の腫大(白斑を伴う) 両側性角膜混濁 食道のびらん・潰瘍	・全身の中動脈のフィブリノイド壊死を伴うリンパ球組織球性壊死性血管炎
2013	USA	・後躯の虚弱	リンパ節腫脹 肝臓の多発性点状白色病変 両側性角膜混濁 脾腫および白脾髄の肥大	・腎臓、膀胱、脾臓、リンパ節、胸腺、骨髄、消化管、肝臓、肺のリンパ球組織球性壊死性血管炎 ・血管炎による髄膜脳炎 ・白脾髄とリンパ節におけるT細胞依存領域の過形成
2010	UK	・肢端の丘疹性紅斑、 被毛の被薄化 ・頬周囲、鼻孔・鼻翼の 痂痂形成		・肉芽腫性毛包炎

# JPCのコメント

## 悪性カタル熱の臨床症状パターン

	主症状	病理組織学的特徴
甚急性	・死亡 (下痢が見られることもある)	
頭部・眼球	・流涙、鼻汁 ・角膜混濁 ・鼻鏡・口腔内の点状出血、 <u>びらん、潰瘍</u>	・全身性の血管炎(付随する組織壊死) ・Tリンパ球の増生
消化管	・下痢 ・消化管の <u>びらん、潰瘍</u>	
神経系	・神経症状 (振戦、眼振、協調運動障害など)	
皮膚	・丘疹性紅斑や痂皮を伴う脱毛	・肉芽腫性毛包炎

### 類症鑑別

ペスチウイルス: BVD-MD、ボーダー病

モルビリウイルス: 牛疫、小反芻獣疫

オルビウイルス: ブルータング、流行性出血性疾患、イバラキ病

ヘルペスウイルス: 牛伝染性鼻気管炎

ラブドウイルス: 水胞性口炎

アフトウイルス: 口蹄疫

いずれも口腔や腸管の潰瘍の原因になるが、リンパ球増殖や血管炎は伴わない